式　辞

幾度か雪が舞い、例年より厳しさを感じた気候も次第に緩み、合瀬川沿いのこの地に暖かな日差しを感じるようになりました。今日の良き日に、ご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、第四十一回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同、大きな喜びであり、高い席からではありますが、ご臨席いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。とりわけ、保護者の皆様には、十八年間にわたり、深い愛情をもって育ててこられたお子様の、立派に成長した姿を前にして、さぞかしお喜びのことと拝察申し上げます。お子様の晴れのご卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、本校の教育に対する三年間のご支援とご協力に深く御礼申し上げます。

さて、第四十一回生、二六六名の皆さん、卒業おめでとうございます。本校での３年間の青春の日々は、皆さんの心にどのように刻まれているでしょうか。

入学式後すぐに学校臨時休業となる中、始まった高校生活が、３年経った今でも、コロナの影響は拭えていません。そうした特異な状況下を高校生として過ごした皆さんは、最近の言葉で、「コロナ世代」真っただ中に当たるのでしょう。しかし、「コロナ世代はかわいそう」と言われると、少し反発したくもなります。少なくとも牧南では、ほとんどの行事を中止することなく工夫をして実施し、生徒の皆さんも感染防止対策を徹底しつつ、楽しむべきところは楽しみ、校内・校外の行事をクラスメイトとともに満喫できたのではありませんか。「コロナ世代」という言葉はこれからも付いて回るかもしれませんが、マイナスではなく、むしろ胸を張って誇りをもてばよいと思います。コロナ禍の３年間で牧南四十一回生は、未知の脅威に対して対策し少しずつ克服していく経験を日々重ねてきましたし、変化に慣れ多少のことでは動じない肝も据わったことでしょう。また、オンラインのメリット・デメリットを理解しＳＮＳなどを器

用に取り入れ、普段の生活をそれなりに楽しんだのではないかと思いますし、何より辛い我慢をしている者同士、互いに支えあう優しい思いやりを自然に示せるようになっていると思います。得難い３年間の経験を経て、先輩たちにも増してたくましく、しなやかで、優しさを備えた、一人の人間として大きく成長できたはずです。ぜひ、牧南での生活から得たものに自信をもち、各自の前途洋々たる未来に歩を進めてほしいと期待します。

さて、ここからは皆さんの未来に向けて、はなむけの意味も込め、三つのアドバイスを贈りたいと思います。

一つ目は、何をするときにも必ず複数の選択できる余地を持っておこう、ということです。自分の信じる道はただ一つと突き進むのはかっこいいようでいて、頑固で融通が利きません。実は仕方なくその道しか選べなかったということはありませんか。そこまで追い込まれる手前で先を読んで、いくつかのオプションを持っておくのです。結局進む道は一つでも、仕方なくではない自分なりの判断でその道を選んだという理由付けが、選択した後、道を迷いなく進む推進力となるはずです。また、オプションを持っておくと、うまくいかなかったときに別のやり方で局面を打開できるかもしれません。現在日本は長い間、景気の後退フェーズにあります。ウクライナで続く戦争も、グローバル経済に組み込まれている日本にさらなる影響を及ぼすことが予想されます。端的に言って、皆さんが社会に出て働きだしたとき、たくさん給料がもらえて、物を買い放題の恵まれた生活が期待できるでしょうか。日本の賃金の水準は、何十年にもわたって低い状態に据え置かれているのです。幸せになるには金持ちにならないと、とか、稼いだお金で好きなものをあるだけ買い、楽しく暮らしたいとか、お金や物の豊かさに幸せの根拠を置く、いわば「昭和の価値観」に縛られないことです。お金以外の何を豊かにすれば自分は幸せになれるか。自分な

りの価値観をすでに持っている人は、それを大切にして人生を進んでください。まだ、これというものを持たない人はぜひ、これからの数年間で幸せのオプションを探してみましょう。

二つ目は、一学期の終業式にお話しした、何かに本気で取り組む経験をしようということです。目の色を変えて何かに没頭することで、皆さんの奥底にある潜在力が目覚め始めます。「本気でやればできないことはない」、そう念じて目の前の課題に一つ一つ全力で向き合ううちに、いつしかできないと思っていたことも楽々とクリアし、自分でも驚くほど大きく成長する、そんな人間に一人一人がなってほしいと思います。

本気になると　世界が変わってくる　自分が変わってくる

変わってこなかったら　まだ本気になっていない証拠だ

本気な恋　本気な仕事

ああ　人間一度　こいつをつかまんことには

僧侶でもあり仏教詩人でもあった坂村真民（さかむらしんみん）さんの「本気」という詩です。この詩の最後の行にもあるように、何かに本気になることは、そう簡単ではありません。しかし、一度本気になるとわかるはずです。本当に世界が変わって見えること、自信が出てきてどんどん前向きになれることを。そして本気を経験した人は、次にも本気で取り組もうとするし、そうすると自分がどんどん向上し変わっていくのです。四月から新しい生活が始まります。本気で何かをする時間がたくさんできることでしょう。本気になって何かをし、大きく成長した姿を我々に見せに戻ってきてください。

さあ、四十一回生の皆さん、いよいよ本校を巣立つときが来ました。三つ目のアドバイスは、日本を代表する一流のスポーツ選手の言葉を借りて、皆さんに贈ります。十四年前の北京オリンピック、更に東京オリンピックでもソフト

ボールで金メダルを獲得したエース・ピッチャー、上野由岐子選手です。彼女が先日、新聞のインタビューでこう話しています。「何が完成形なのか、わからない。常に変化し続ける感じなので。だからいくらでも変われる。昔の考えもどんどん変化していく」と。数々の栄誉を築き上げた上野選手でも、変化を恐れず新しいことに挑戦し続けているのです。上野選手は所属チームの若い選手たちにも、「チェンジはチャンス。何かを変えないとチャンスは生まれないよ」と語りかけたそうです。チェンジとチャンスは英語でもアルファベット１字違い。そこで、「チェンジはチャンスに通じる」と、上野選手は自分に言い聞かせている言葉を、将来ある若手に知ってもらおうとしたのだと思います。さて、皆さんも高校を卒業し、大きく生活をチェンジする時を迎えました。これは大きなチャンスです。住み慣れ通いなれた地元から新しい環境に出て、人との新しい交流のネットワークを作り、今まで手を出したことがない新しい事柄に興味関心を持ち、試しにやってみましょう。今まで通りの毎日が、明日から何が起こるかわからないわくわくした日に変わるのも、自分次第です。青春の残りの日々、失敗を恐れず新しい自分に賭けてみましょう。

　最後に保護者の皆様にもお話させていただきます。お子様のご卒業おめでとうございます。義務教育から高校卒業まで、お子様に愛情を注がれ献身的にお世話をされたことが、ここに実を結ばれたことを、改めてお祝い申し上げます。さておそらく、保護者の皆様もお子様に対し、高校卒業を機にどのように接したらよいのか、戸惑いを感じていらっしゃる方があるのではないでしょうか。そうした方にも先ほどの「チェンジはチャンスに通じる」という言葉をお贈りしたいと思います。お子様の可能性はいつまでも保護者の手の中に収まるサイズではありません。一抹の不安はおありかもしれませんが、お子様を大きく羽ばたかせるためにも、慣れた環境に安住するより、思い切って変化を求め可能

性に自らを賭けてみる方向に、お子様の背中を押していただけるよう、私からもぜひにお願いします。

卒業生の皆さん。皆さんは、本校の歴史と伝統の中に刻まれた大切な卒業生です。うれしいとき、苦しいとき、困ったとき、いつでも学校へ帰ってきてください。牧南は今も、これからもずっと、皆さんの母校であり、心のふるさとであり続けることを約束します。

卒業生諸君の今後の健康と発展を念ずるとともに、皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして式辞とします。

令和五年三月三日

愛知県立小牧南高等学校長　　瀬尾　　学